

2023年4月27日 春山連絡会

①GWの前に知っておきたい安全登山のための情報 顧問 中川和道氏
(OWCC)

ココヘリ安全登山学校(4/21)をもとに中川顧問がその要約を説明解説
雪山の危険を知らないまま登っている登山者が多い。雪山に登る登山者が
陥りやすい間違っただけの情報を9つを説明

危険な勘違い1 ネットやYoutubeの情報は正しい

ネットやYoutube情報で計画を作る人も多い。役に立つが投稿者の主観
も多い⇒鵜呑みは危険。例えば日帰り・軽装で登山とあっても投稿者のス
ピードや技術・経験・山の状況などで大きく異なる。自分のレベルを知っ
て最悪の場合の想定と準備が必要。引き返すことも、その経験は今後にし
きる。

危険な勘違い2 先行者のトレースをたどればいい

先行者トレース=雪をかきわける労力が減る。登山道をさがす必要がない
・ルートが間違っていることもある。雪庇かも雪崩地形を横切っているか
も。たまたま先行者は踏み抜いたり雪崩に遭遇しなかっただけで自分がそ
の危険から逃れられるとは限らない。先行者のトレースも疑う必要

危険な勘違い3 雪山の経験者だからその人の言うことは正しい

- ・初めは経験者と行くのはまずは正しい。
- ・雪山に何度も行っている=正しい知識を持っているではない
- ・昔は雪山と言えば大学山岳部や社会人山岳会のみが行くところだった
「1シーズン30日雪山に入る」(松濤 明)
- ・色々な訓練+リスクをしっかりと学び、次第に山のレベルをあげていく
- ・最近ではこうした取り組みが弱いので危険性をしっかりと学ぶ必要がある

危険な勘違い4 晴れだからリスクは少ない=間違い

前日に大雪で雪崩のリスク高。晴れでも20m/s超えの風なら凍傷や低体
温症、転滑落などのリスクが

簡易な天気予報ではこれらのリスクを判断できない

危険な勘違い5 天気予報が晴れ（AやB判定）だから山頂では天気は崩れない

ネットの多くの天気予報は山頂ではなくふもとのもの。天気予報ではなく指標。

山頂の予報の一般公開には厳しい規制がある

山岳気象に精通した気象予報士が発表する予報を利用する

ヤマテンが大荒れ情報を発表しているときに気象遭難が多発

危険な勘違い6 朝のうちは雪が安定している

気温が上がる、春になる＝雪崩は間違い

真冬の気温の低い時期＝雪崩リスク低いも間違い

雪崩は表層雪崩など条件が揃えばいつでも発生する

危険な勘違い7 樹林帯は雪崩が発生しない

これも誤り。ある程度の傾斜があり発生する条件が揃えば雪崩は発生する

危険な勘違い8 尾根道だからビーコン・ゾンデ・スコップは持っていない

尾根でも太い樹木林でも雪崩の積雪はすぐに固まる＝スコップがなければ掘り出せない

雪崩で助けられる確率

18分後 Or 20分後から急速に低下窒息。一刻も早い救助が必要

ビーコンがないと居場所不明。ゾンデがないと救出できない

この3つの装備は必要

危険な勘違い 9 一度雪崩が発生したらもう大丈夫

これも誤り

破断面の上にも傾斜があれば次の雪崩が起きる可能性がある

雪崩捜索の際は必ず見張り役を置き絶えず上方をチェックするように。

雪崩が発生した斜面を時間をおかずに登ることは絶対やめよう

●学ぶことが重要 雪崩ネットワークが主催する講習会などに参加を

●ヤマテンも月額330円 10年で4万円 救助は1回100万円

②春山の気象と注意点 H.C.teruru 高田和孝氏

春の気象の特徴

- ・冬から夏への季節の変わり目
- ・移動性高気圧と温帯低気圧が交互にくる
- ・低気圧が発達しやすい
- ・日ごとの気温差が大きい
- ・朝と昼の気温差が大きい（特に晴れた日）春山の一日の雪の変化

朝は凍結⇒昼は融解⇒夜は再び凍結

従って

晴れた日の午前は滑落事故が多い/晴れた日の午後は踏み抜きが多くなる
（スノーブリッジの崩落、雪庇の崩落、ブロック雪崩、全層雪崩）

斜面の日当たり、時間帯を考慮して行動を

春山の気象条件と高層天気図の寒気、今年の雪の量などを解説し以下のよ
うに注意点をまとめられた

春山の注意点

- ・Tシャツで行動できる日もあれば冬装備が必要な日もある
- ・雨（大雨）の日もあれば、雪（大雪）の日もある（1mmの降水≒雪の場合
は1cmの積雪）
- ・雨のあと気温が低下して雪が降る
- ・日ごとに雪質が変化する
- ・雪崩、雪庇、クラックなど雪山一般の注意
- ・「濡れ」に注意する（湿雪、雨、汗）
- ・晴れた日の水分補給、紫外線対策

気象情報を利用する際の注意点

- ・天気予報は最新であるほど精度があがる
- ・天気予報の精度は年々向上している。従って気象遭難は人為的な要因が
大きい
- ・この精度の向上による恩恵を無理する方に使わずに安全確保するために
活用しよう。

文責 高橋明代